

平成 27 年度 燕市・西蒲原郡体育部 活動報告

部長 小島 和浩

1 研究主題

『一人一人が意欲的に活動に取り組む体育指導の工夫』

2 研究の概要

(1) 第 1 回 (6 月 3 日) 実技講習会「ヘキサスロンプログラム」

講師 燕市体育協会・ミズノグループ 千葉 篤 様

会場 燕市立分水小学校 体育館

[講習の主な内容]

体力向上と運動の楽しさをねらいとしたヘキサスロンプログラムを実際に体験した。ハードルグッズを使った運動、ロケット・ディスクを使った投運動、ハンマーを使った投げ方等について説明を受けながら、試技を行った。それぞれのプログラムのねらいと指導方法、アドバイスの仕方等を丁寧に教えていただいた。会員からは、準備運動や補助運動に使える、投げる動作の重心移動のポイントがわかりやすい等の感想が出された。



(2) 第 2 回 (11 月 6 日) 授業研修 * 県小学校教育研究会指定研究 (3 年次) との共催

授業者 藤本 優 教諭(燕市立分水小学校) 体づくり運動

授業者 三浦秀之 教諭(燕市立分水小学校) バスケットボール

補助者 永井芳一 様(燕市体育協会運動指導員)

[授業の概要(体づくり運動)]

主運動につながる補助運動の後、平均台を渡る活動を行った。児童は、一人でバランスをとりながら渡ったり、障害物を超えて渡ったりしていた。そこで、うまく渡るためのコツを見出していった。その後、平均台の上で友達とすれ違うという課題に取り組んだ。これまで獲得したオノマトペを使ったり、動き方を工夫したりしながら楽しそうに取り組んでいた。



[授業の概要(バスケットボール)]

学級の実態に即した補助運動の後、ハーフコートでアウトナンバーをつくる動きを確認した。ゲームでは、補助運動での動きやチームでの作戦をもとにして得点を競い合った。児童は、5 対 4 という攻撃側にとって数的有利な条件のもと、ボールをもってない時の動き方を生かして、シュートにつなげていた。また、チーム内での振り返り活動も熱心に行っていた。



3 成果と課題

主運動につながる補助運動、動きのコツを目指したオノマトペや運動履歴の把握が新たな動きの獲得につながるということがわかった。今後も、児童が意欲的に活動する体育授業の在り方、指導者としてのスキルアップのための実技講習会を継続していくことが大切である。